2020.9.26～10.25
（水曜休館日）

たゆとう記憶 ～生と終のはざまで

つしの間の手前と奥の二部屋をつなぐ小さなにじり口。

その中にからだを滑り込ませていく感覚は

私に胎内くぐりのような懐かしい記憶を呼び覚ました。

奥の小さな部屋は、

不確かな私の胎内記憶のイメージから、

温かで心地よい籠もり感と

いのち脈打つ現場をあらわした空間。

そして、手前の部屋は、

胎内から現実世界へ飛び出したいのち、

舟に乗って大河にこぎ出す人々の

一生を現した世界。

紙と墨でつくられた舟の造形物は

ゆりかごのように 棺のように、

自分の意思では及ばない

運命のうねりや時代の流れに翻弄されつつ

たゆとい、たくましく進んでいく。

奈良町にぎわいの家（登録有形文化財）

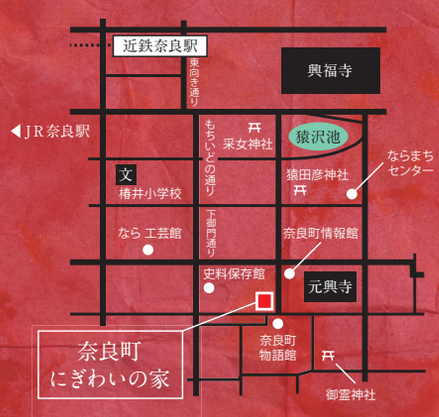
奈良町の中心に建つ町家です。表屋造で、入り口を突上げ戸とし、平格子と出格子を構え、つし2階には格子窓が建て込まれています。

https://naramachi-nigwainoie.jp

〒630-8333 奈良市中新屋町5番地

Tel.0742-20-1917

近鉄奈良駅から徒歩13分、JR奈良駅から徒歩20分
駐車場はございませんので、車でお越しの際は
近隣のコインパーキングをご利用下さい。



加藤 史江 Fumie Kato

1967年大阪市生まれ。奈良教育大学卒業。木から生まれ土に還る「紙と墨」の神秘に惹かれ、その可能性を広げる作品を制作する。いのちのつながりや人と人との結びつき、時空を越えた普遍的なものをテーマに、展示空間から受けるインスピレーションを平面、立体、インスタレーションと様々なかたちで展開する。

主な作品展として、「ひとつの視点Ⅰ·Ⅱ·Ⅲ」2003·2005·2007ギャラリーマロニエ（京都）、木津川アート 2010·2011·2012·2014·2018（京都）、亀山トリエンナーレ2017（三重）、「素のかたち」個展 2018 法然院（京都）、とおのおと～当尾 Creationp Project 2020～木津川市当尾の郷会館（京都）など多数。